

ALC 令和5年度事業概要

アートリエゾンセンターは、「I 音楽教育支援活動」、「II 福祉と子育て支援事業」、「III 芸術によるまちづくり事業」の3本を柱に、芸術文化事業を展開しています。

I 音楽教育支援活動

足立区内のこども園、小学校、中学校といった教育現場を対象として、東京藝術大学の卒業生を中心とした演奏家を派遣し、訪問型の音楽教育支援活動を行っている。子どもたちの文化芸術に対する関心を高め、豊かで健全な育ちに寄与することを目的としている。

事業内容

- 洋楽／邦楽の音楽鑑賞会
- 音楽科授業等の補助
- 部活動指導補助
- 教員研修会

研究分担者

佐野 靖（副学長・音楽学部教授）

〈洋楽／邦楽の音楽鑑賞会 p.12、13〉



〈音楽科授業等の補助 p.12、13〉



〈部活動指導補助 p.14〉



〈映像コンテンツ p.15〉



I. 音樂教育支援活動

目的・概要／令和5年度の成果と課題

実施の目的と概要

「音楽教育支援活動」の目的は、「足立区立の小学校や中学校、こども園等において音楽教育支援を行うことを通して、音楽技能の向上と文化芸術への関心を高め、子どもたちの豊かで健全な育ちに寄与すること」である。

具体的には、東京藝術大学出身の若手演奏家や大学院生などを活用し、学校及びこども園の先生方と協働しながら、邦楽系や洋楽系のコンサートやワークショップ、部活動や課外活動の指導補助、音楽科授業等の補助、教員研修会などを実施し、音楽教育に関する支援活動を展開している。

2023年度は、前年度と同様「対面実施」と「映像コンテンツ利用」の二本立てでプロジェクトを実施した。コロナウイルスのガイドラインの更新によって、今年度は、対面によるコンサートやワークショップ、演奏指導が増加し、対面実施が計50件とほぼコロナ以前の水準近くにまで回復することができた。加えて、コロナ禍において作成した映像コンテンツの利用も20件を数え、計70件のプロジェクト実施に参加した児童・生徒・教員等の総数は、10,742名にのぼる。

コロナに加えてインフルエンザの流行もあって、十分な感染対策は続けて必要となったが、学校側、そして演奏家等の協力のおかげで、大きな問題もなくプロジェクトを実施することができた。プロジェクトの計画から準備、事業完了に至るまで、慎重かついねいに対応していただいた関係諸氏に、この場を借りて深く感謝申し上げる。また、足立区内の子どもたちの学びを取り巻くネット環境は、格段に改善されており、本プロジェクトにおいても、タブレット端末を活用した映像コンテンツの視聴と対面実施を併用するなど、各学校の実態に応じた取り組みを工夫することができた。こうした学びの環境整備に尽力した足立区にも感謝申し上げる次第である。

対面実施と映像コンテンツによる実施とその内訳、参加者数は以下のとおりである。

◎対面実施 (50件)

▼邦楽系事業 [参加：2,651名]

鑑賞会：10校（小学校：7校、中学校：3校）

授業等補助：4校（小学校：3校、中学校：1校）

▼洋楽系事業 [参加：4,268名]

鑑賞会：17校（小学校：13校、中学校：2校、こども園：2校）

授業等補助：1校（小学校：1校）

▼演奏指導 [参加：539名]

楽器別の演奏指導：17校（小学校：10校、中学校：6校、小中一貫校：1校）

▼教員研修 [参加：43名]

▼教員研修 [参加：43名]

和楽器の研修会：1件（小学校音楽教員）

[参加した児童・生徒・教員等の総数：7,501名]

◎映像コンテンツによる実施 (20件)

▼鑑賞 [対象：1,470名] 7校（小学校：5校、中学校：2校）

▼授業等補助 [対象：866名] 6校（小学校：5校、中学校：1校）

▼演奏指導 [対象：905名] 7校（小学校：5校、中学校：2校）

[参加した児童・生徒・教員等の総数：3,241名]

なお、2023年度本プロジェクトをコーディネートしてくれたアトリエゾンセンターのスタッフは、次の3名である。

中村 栄宏（教育研究助手）

長谷川将也（教育研究助手）

山内 彩（教育研究助手）

以下、2023年度の活動内容の成果と課題を記すことにする。活動内容の詳細については、各項目を参照されたい。

活動内容の成果と課題

成果の第一としては、前述のように今年度は、対面によるコンサートやワークショップ、演奏指導が計50件を数えるまでに回復し、さらに、コロナ禍のもと試行錯誤で作成、配布した映像コンテンツも、鑑賞や授業補助、金管バンド・吹奏楽の演奏指導において効果的な視聴教材として学校現場に定着したことがあげられる。対面実施が増えたことは、生の音や音楽が生命線の本プロジェクトにとっては、言うまでもなく歓迎すべきであるが、今年度は、映像コンテンツのもつ可能性を捉え直す契機ともなった。すなわち、何度も反復して視聴できるというよさをもつ映像コンテンツは、鑑賞の充実という観点では大変重要な役割を果たし、コロナ禍以前のように対面実施が回復したことによって、むしろその事前学習として、あるいは演奏指導のサポート教材として、実に効果的であることが実証されたのである。今後、対面実施が完全復活したとしても、事前・事後をサポートする視聴覚教材として、映像コンテンツが大きな教育的可能性をもつことはまちがいない。よりよい映像コンテンツの開発に今後も継続して取り組んでいきたい。

成果の第二は、学び手（子どもたちや教員等）の立場に立った新たな提案がなされたことである。例えば、和楽器と洋楽器のコラボレーションの新設である。これは、尺八とピアノ、そしてリコーダーという

トリオの編成で、きわめて珍しいアンサンブルにもかかわらず、4校からの希望があり、音色や機能の違う3つの楽器の織り成すサウンドに、子どもたちは音楽のもつ魅力や不思議さを感じ取ることができた。また、音楽専科教員の研修においては、「鑑賞」「実践」「質疑応答」の3部構成を提案し、とりわけ実技研修の「実践」では、4つの楽器から2つを選択してローテーションによる実技体験を可能にするよう工夫した結果、参加の専科教員から高い評価を受けることとなった。

成果の第三は、本事業への申し込み方法の改善があげられる。学校側からの申し込みは、従来紙媒体で行っていたが、記入漏れ等があった場合などやり取りにかなりの時間を要し、作業の簡略化が課題となっていた。学校を取り巻くネット環境も大きく改善された状況の中、ようやく今年度より本事業への申し込みシステムをオンライン化し、Web上での申し込みが可能となった。そのため、作業にかかる時間が節約され、記入漏れ等への対応もスムーズになった。さらに、演奏指導に関する募集開始の時期を早めることにもつながり、学校現場の希望に添うことができた。

課題としては、次の2点をあげておきたい。

1点目は、更なる映像コンテンツの開発である。鑑

賞系に関しては、かなり多種多様なコンテンツが作成されているが、楽器のメンテナンス、各楽器の奏法や発声・歌い方等に関するコンテンツはまだ開発の余地がある。実際の演奏指導においても楽器のメンテナンスに関する指導に多くの時間は割けないし、メンテナンスの講習会を開催することは現状では難しいため、各楽器のメンテナンスの基本をわかりやすく説明するコンテンツの開発が期待される。さらに、音楽の授業に直結するような発声や歌い方、創作や即興的な表現、リコーダーなど授業でよく使われる楽器の基礎・基本に関する映像コンテンツの開発も、本プロジェクトに課せられた課題である。

2点目は、アトリエゾーンセンターの新たな体制づくりである。講師として派遣しているアーティストたちも、やはり各自のキャリアアップが最優先なため、本プロジェクトに関わるメンバーも入れ替わりを避けられない。幸いなことに、藝大は毎年多くの優秀な人材を送り出している。これまで以上に音楽学部と密接に連携し、若い優秀なアーティストを随時足立区に派遣できるような体制を構築することが大切である。そのためには、本プロジェクトに特に関わりの深い管打楽器や邦楽の部会との連携を一層強化する必要がある。

(文責：佐野 靖)

【音楽教育支援活動 実施一覧】

■対面での実施 鑑賞会・授業等補助

	学校名	プラン	実施日時	対象	参加人数
1	中川北小学校	打楽器の鑑賞会	6/13	4年生	87
2	東伊興小学校	リコーダーアンサンブルの鑑賞会	6/15	3年生	136
3	千寿本町小学校	和楽器(箏)の授業等補助	6/26	4年生	100
4	舎人第一小学校	打楽器の鑑賞会	7/3	全校生徒	537
5	西新井第一小学校	和楽器(三味線)の授業等補助	7/5	5年生	62
6	第七中学校	箏、三味線、尺八の鑑賞会	7/5	1,2年生	414
7	花保小学校	金管アンサンブルの鑑賞会	7/19	全校生徒	535
8	東湖江小学校	打楽器の鑑賞会	9/6	5,6年生	214
9	保木間小学校	尺八、リコーダーの鑑賞会	9/7	全校生徒	342
10	花畑第一小学校	和楽器(太鼓)の授業等補助	9/13	3,4年生	164
11	扇小学校	声楽アンサンブルの鑑賞会	9/14	5,6年生	109
12	亀田小学校	リコーダーアンサンブルの鑑賞会	9/15	3,4,5,6年生	519
13	竹の塚中学校	和楽器(箏)の授業等補助	9/21	3年生	29
14	栗島小学校	打楽器の鑑賞会	9/28	4,5年生	326
15	湖江第一小学校	金管アンサンブルの鑑賞会	9/28	全校生徒	215
16	鹿浜五色桜小学校	津軽三味線、尺八、太鼓の鑑賞会	10/4	3,4年生	160
17	入谷中学校	ピアノ連弾の鑑賞会	10/10	全校生徒	122
18	東栗原小学校	津軽三味線、尺八、太鼓の鑑賞会	10/13	5,6年生	402
19	足立入谷小学校	打楽器の鑑賞会	10/13	全校生徒	126
20	中島根小学校	箏、三味線、尺八の鑑賞会	10/13	全校生徒	129
21	大谷田小学校	箏、三味線、尺八の鑑賞会	10/19	4年生	60
22	元宿こども園	打楽器の鑑賞会	10/25	4,5歳児	42
23	島根小学校	器楽合奏の指導	10/30	6年生	94
24	加平小学校	尺八、リコーダー、ピアノの鑑賞会	10/30	3,4,5,6年生	420
25	足立小学校	打楽器の鑑賞会	11/16	5,6年生	220

26	六月中学校	弦楽四重奏の鑑賞会	11/17	3年生	194
27	古千谷小学校	声楽アンサンブルの鑑賞会	11/20	全校生徒	551
28	桜花小学校	箏、三味線、尺八の鑑賞会	12/7	5, 6年生	63
29	瀧江小学校	弦楽四重奏の鑑賞会	12/14	4, 5年生	136
30	加賀中学校	尺八、リコーダー、ピアノの鑑賞会	12/18	全校生徒	198
31	鹿浜こども園	打楽器の鑑賞会	12/20	3, 4, 5歳児	105
32	第一中学校	尺八、リコーダーの鑑賞会	1/15	1年生	108

■対面での実施 演奏指導

	学校名	プラン	実施日時	対象	参加人数
1	弘道小学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	6/16, 6/19, 6/20, 6/26	吹奏楽部	43
2	瀧江中学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	6/17, 6/19, 6/20, 6/22, 7/3, 7/6, 7/7, 7/23, 7/24, 7/27	吹奏楽部	22
3	西新井中学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	6/17, 7/1, 7/23, 7/24, 7/28, 7/29, 8/3	吹奏楽部	51
4	花畑西小学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	6/19, 6/22, 6/28, 7/3, 7/4, 7/13, 7/20	金管バンド	12
5	千寿小学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/10, 7/14	金管バンド	21
6	伊興中学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/15, 7/16, 8/2, 8/3, 8/10, 8/11, 8/12, 8/26, 8/27	吹奏楽部	14
7	東綾瀬中学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/15, 7/17	吹奏楽部	30
8	谷中中学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/21, 7/22, 7/24, 7/25, 7/26, 8/2, 9/15	吹奏楽部	38
9	興本扇学園	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/21, 7/24, 7/25, 7/26, 8/1, 8/2	吹奏楽部	18
10	第六中学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/21, 7/24, 7/25, 7/28, 7/31, 8/1	吹奏楽部	18
11	千寿常東小学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/21, 7/25, 7/26, 7/27, 8/1, 8/2, 8/3, 9/15	金管バンド	40
12	江北小学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/24, 7/25, 7/26, 7/27, 7/28	金管バンド	29
13	舎人小学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/24, 7/25, 7/26, 7/27, 7/28	金管バンド	35
14	千寿第八小学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/24, 7/25, 7/31, 8/1, 8/2, 9/30	金管バンド	44
15	千寿桜小学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/25, 7/26, 7/27, 7/28	吹奏楽部	50
16	東綾瀬小学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/25, 7/28, 8/1, 8/2, 8/3, 8/29, 8/31	金管バンド	41
17	梅島第一小学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	10/19, 10/26, 10/31, 11/9, 11/16, 11/30, 12/5, 12/7, 12/11	金管バンド	33

■映像コンテンツによる実施

	学校名	内容			対象	対象人数
		演奏指導	鑑賞	授業等補助		
1	江北小学校	○		○	4, 5, 6年生	30
2	第一中学校	○	○	○	1, 2年生, 吹奏楽部	108
3	花保小学校	○			4, 5, 6年生 金管バンド	535
4	北三谷小学校			○	6年生	55
5	梅島第一小学校	○	○	○	1, 2, 3, 4, 5, 6年生	35
6	中川北小学校		○	○	3, 4, 5, 6年生	87
7	東伊興小学校	○	○		4, 5, 6年生 金管バンドクラブ	136
8	伊興中学校	○	○		吹奏楽部の1, 2, 3年生	16
9	舎人第一小学校		○		4年生	537
10	弘道小学校	○			吹奏楽部	45
11	古千谷小学校		○	○	4, 5, 6年生	551

■教員研修

学校名	プラン	実施日時	対象	参加人数
小学校音楽教員研修	和楽器の指導法	7/27	足立区立小学校の音楽教員	43

邦楽系事業（鑑賞会・授業等の補助）

邦楽の鑑賞

パッケージA:「邦楽の鑑賞」は、前年度までのパッケージを改変し、新たに1パッケージを加えた計5パッケージを設定した。

- ・A-1：箏・尺八
- ・A-2：長唄・長唄三味線・日本舞踊
- ・A-3：民謡・祭りの音楽
- ・A-4：雅楽、能楽
- ・A-5：和楽器と洋楽器のコラボレーション（今年度新設）

今年度は「対面実施」を基本とし、演奏会形式でのコーディネートを行なった。

今年度は、事前アンケートで「邦楽の鑑賞」を希望する学校が[A-1 箏、尺八：4件][A-3 民謡・祭りの音楽：7件][A-4 雅楽、能楽：2件][A-5 和楽器と洋楽器のコラボレーション：10件]という内訳であり、うち実施した学校は、[A-1 箏、尺八：4件][A-3 民謡・祭りの音楽：2件][A-5 和楽器と洋楽器のコラボレーション：4件]であった。

[A-1 箏、尺八]は、2022年度ぶりの実施となったが、今年度は「箏」「三味線」「尺八」の三つの楽器による合奏形式である「三曲合奏」で公演パッケージを作成し、日本の伝統音楽の鑑賞ポイントや、各楽器の持つ音色や特色について、実演と解説を交えた公演を行った。

[A-3 民謡・祭りの音楽]は、パッケージ設定以来、多くの実施希望と好評を受けており、今年度も数校からの希望があった。津軽三味線、尺八、囃子の演奏家それぞれ1名、計3名に演奏を依頼した。楽器紹介や、各楽器の独奏のほか、津軽三味線の独奏による「津軽じょんがら節」、演奏家によるオリジナル作品の演奏など、小編成ながらも幅広くバラエティに富んだプログラムで、楽器や編成の可能性を感じられるパッケージを構成した。

今年度新設のパッケージ[A-5 和楽器と洋楽器のコラボレーション]では、「尺八」と「リコーダー」「ピアノ」によるトリオのパッケージを設定し、学校教育にも用いられる身近な楽器である「リコーダー」「ピアノ」と、間近で接することの少ない「尺八」による珍しい編成で公演を実施した。新設ということもあり、特に希望の多いパッケージであったことが印象的である。「尺八」と「リコーダー」の音色や機能の差異や、トリオで奏でられるサウンドに、参加児童・生徒が強い関心と興味を持って鑑賞に取り組んでいる様子がうかがえた。

今年度は、5月にコロナウイルスのガイドラインが更新されるなど、4年弱続いたコロナ禍に大きな変化が生まれた年であったと感じている。学校現場や演奏現場においても、積極的に対面でのコンサート・鑑賞会が開催できるようになったことは、大変喜ばしいこ

とである。来年度以降も、より発展的な鑑賞パッケージを提示できるよう、さまざまな企画を検討してゆきたい。

（文責：長谷川 将也）

授業等補助

パッケージD「授業等の補助」のうち、邦楽系事業としては「D-5 和楽器指導」の1つの区分で募集を行った。

本年度は4校からの希望を受け、「三味線の指導」「箏の指導」「囃子の指導」と、例年に同じく幅広い希望があった。

いずれの学校も、音楽の授業に和楽器の実技を積極的に取り入れている学校で、センターで提供するパッケージを通常授業に対する発展的取り組みとして活用する形を採っていた。

授業は「楽器体験」「楽器紹介」「作品鑑賞」と、内容を大きく3つに分けて実施したが、学校からの要望もあり「楽器体験」に多くの時間を使った。たとえば「三味線の指導」「箏の指導」を希望した3校では、日本古謡「さくらさくら」を題材に、楽器の構えから実際の演奏まで、演奏家が生徒一人一人に寄り添って細やかな指導を行った。「和太鼓の指導」を希望した学校では、学校が用意した楽器を用いて、楽器の扱い方から叩き方など基礎指導を行った。

授業等補助で和楽器指導を希望する学校は、その殆どが、毎年の恒例行事として和楽器の実技を取り入れている学校であるため、授業の進行については比較的スムーズである印象を受けた。

一方で希望校の偏りを感じることもあるため、センターとしては、より魅力的なパッケージを提示できるよう、今後の課題として検討して行きたい。

（文責：長谷川 将也）

アンケートより

- ・日本の四季メドレーのアレンジが素晴らしくリコーダーや尺八の音の可能性（発展性）を強く感じました。
演奏の前に「さていくつの歌が入っていたでしょう」というようなクイズをすともっと子供たちが集中して聴けたかな、面白いかなと感じました。（小学校教員・女性）
- ・すてきな曲や音色などを聞かせていただいてありがとうございました。他の昔の楽器の名前や音などもすごく聞きたくなりました。（小5・男子）
- ・本当にたのしかったです。ことがこういうがっきだということが分かりました。あと最後のみなさんのえんそうでこういう音がでることが分かりました。またことをえんそうしてみたいと思います。（小4・男子）

洋楽系事業（鑑賞会・授業等の補助）

●パッケージB：洋楽の鑑賞会

洋楽の鑑賞会では、新たに「古楽」のパッケージを加えた以下の7つの区分にて募集を行い、17校にて事業を実施した。

- B-1：ピアノ [中学校1校]
- B-2：声楽 [小学校2校]
- B-3：弦楽器 [小学校1校、中学校1校]
- B-4：木管楽器 [実施なし]
- B-5：金管楽器 [小学校2校]
- B-6：打楽器 [こども園2校、小学校6校]
- B-7：古楽 [小学校2校]

例年同様に打楽器の希望が多かったものの、初めてのパッケージである「古楽」にも申込があり、昨年度より7校多く実施することができた。

事前アンケートには、演奏の楽しさを間近で味わわせたい、演奏者と共に活動させたいなど、単なる鑑賞会に留まらず、児童参加型の形式を要望する声が多かった。

これはコロナ禍を乗り越え、より対面での実施を希望する学校が増加し、音楽を身近に感じられるコンテンツを希望する学校が増えたことが伺える。

「B-7古楽」では、聞き馴染みのある音楽もプログラムに入れて欲しいとの要望に応えるため、教育楽器として幅広く知られている「リコーダー」を用いた公演を実施した。

4名でのリコーダーアンサンブルでは、大小異なる20本以上の楽器を用い、古楽、ポピュラー音楽が混ざったプログラムで様々なアンサンブル形態を取り入れることで、児童には敷居の高い古楽を、身近に体験してもらう良い機会になった。

演奏後の質問コーナーでは、リコーダーの綺麗な音の出し方・練習のコツを知りたいなど、今後の児童の演奏に繋がるような質問も多く見受けられた。

「B-2声楽」では、ソプラノ・アルト・テノール・バスの歌手4名とピアニスト1名に演奏を依頼し、ベートーヴェンの第九をはじめとした重唱・オペラ・イタリア歌曲・ドイツ歌曲・日本歌曲など、幅広いジャンルでの公演内容を実施した。コロナ禍が明けたことで、多くの制約があった声楽の公演スタイルは自由になり、児童の近くを歩きながら歌唱をしたり、児童を巻き込んでの斉唱を実施することができた。

長らく合唱を禁止されていた児童にとって、プロの歌手と心をつなぐに斉唱した時間は、かけがえのない体

験であったと考えられる。

アンケートより

- ・ リコーダーのコツをおしえてくれたから、次リコーダー吹く時にコツをつかんで吹きたい。リコーダーにいろんな音や大きさがあっておもしろいと思った。(B-7 小1女子)
- ・ 歌声、ピアノがきれいすぎて、体がかってに動いてしまうくらいすごかったです(B-2 小5男子)
- ・ ソプラノの音が楽器のようだった(B-2 小6女子)
- ・ リコーダーだけでいっぱい曲が演奏できるのがすごかったと思います(B-7 小3男子)
- ・ 質問コーナーで、楽器に興味を持ったきっかけなどのお話は、子どもたちのこれからリコーダーを頑張るやる気にも繋がりました。(B-7 教員)
- ・ 演奏会后、聴いた曲を一生懸命まねしている子もいました。とても刺激を受けたようです。(B-2 教員)
- ・ 最後一緒に歌わせてもらえたことで、こどもたちも受け身で終わらずに、次の学習に活かすことができました。(B-2 教員)

(文責：山内 彩)

●パッケージD：授業等の補助

パッケージD「授業等の補助」のうち、洋楽系事業としては以下の4つの区分で募集を行った。

- D-1：歌唱・合唱指導 [実施無し]
- D-2：器楽指導 [小学校1校]
- D-3：創作指導 [実施無し]
- D-4：鑑賞指導 [実施無し]

D-2：器楽指導では、校内の音楽発表会で演奏する「ラブソディー・イン・ブルー」の器楽指導について希望があったため、東京藝術大学指揮科の卒業生を派遣し、合奏する上での注意点や意識すべきポイントについて、細やかな指導を依頼した。

アンケートより

- ・ ご指導ありがとうございました。早い段階で「通す」という目標を達成したことで、もっと演奏が上手になりたいという意欲が高まりました。(D-2 教員)
- ・ 勉強になったことは、音楽や演奏はイメージなんだと感じました。理由は藝大の先生が色々なイメージを例えて教えてくれたからです。(D-2 小6男子)

(文責：山内 彩)

金管バンド・吹奏楽の演奏指導

●パッケージC：金管バンド・吹奏楽の演奏指導

「金管バンド・吹奏楽の演奏指導」は、足立区小中学校の吹奏楽部、金管バンドクラブに向け、本学卒業生、および在学学生を指導者として派遣するパッケージである。楽器演奏の基礎、楽器の扱い方、楽曲の演奏法など、より良い音楽活動のため、幅広い指導を行う。昨年度までの指導要員に加え、新たに演奏指導に意欲のある大学院生、学部生数名が今年度から加わったことで、多くの件数に対応することができた。

募集は〔C-1：楽器別の演奏指導〕〔C-2：合奏指導〕の二種に分かれており、のべ回数内であれば併用することも可能としている。本年度の申込みはすべてC-1で、実施校は17校（小学校：10校、中学校：6校、一貫校：1校）と昨年度の実施校数と同様であった。各学校から寄せられた希望する指導楽器の事前アンケートを元に、指導講師との日程のマッチングを行い、レッスン日を決定した。本年度は平均して1校あたり12回の指導実績となり、すべての学校に対して、複数回の指導を行った。希望に応じて10種類以上の楽器講師が1度ずつ指導へ行ったり、3～4種類に楽器を絞って各楽器で複数回のレッスンを行うなど、可能な限り希望に沿った指導プランを提供した。吹奏楽コンクールが開催される8月前後には、指導希望が集中し、同一の講師が1日に複数の学校へいくこともあったが、木管・金管・打楽器の各コーディネーターの尽力もあり、問題なく学校への派遣が完了した。

指導内容は、夏のコンクール前の時期に、課題曲・自由曲に対する集中的な指導を求められることが多かった。パートごとによる少人数への演奏指導であったため、各奏者の習熟度にあわせてレッスンを行い、それぞれの実状に細かく寄り添った指導を行うことができた。今年度より立ち上がった金管バンドへの指導では、楽器の扱い方への指導要望があったが、指導経験が豊富かつ優秀な楽器演奏家が指導に当たっているため、柔軟に対応することが可能であった。昨年度までの傾向と同様に、全体としては基礎・基本から見てほしいとの声が多く、入部したての児童・生徒への指導を求めることから、早い時期の実施希望が多

かった。本年度は、5月に全校に案内を発送し、昨年度に比べて1ヶ月ほど早い6月中旬からの実施となった。近年と比べ落ち着いてはきたものの、新型コロナウイルスやインフルエンザの流行により、やむを得ない日程変更が数件あり、その日程調整をいかに迅速に行うことができるかが今後の課題である。来年度は、学校からの希望と講師のスケジュールを擦り合わせるためのシステムの導入を検討しており、よりスムーズに日程調整を行うことで、学校の急な日程変更にも対応できるように対策を講じていきたい。

アンケートより

- ・ おすところは3つしかないけどいろんなおとができることをしった。楽器をきれいにするやりかたや音のだしかたをおしえてくれてありがとうございました！〈小4女子〉
- ・ 今まで楽器の管をぬくということをしてこなかったのでぬくことで楽器一つ一つの音がそろうことを今回のレッスンをうけて学ぶことができました。〈小6女子〉
- ・ 曲を吹く時に気をつけること、意識することはなにか具体的に教えてもらったり、ビブラートのやり方（練習のしかた）を学びました。〈中3女子〉
- ・ とてもわかりやすい授業で沢山のことを学べた。実際に吹いてみたらうまく吹けました。2回だけでしたが、とてもありがたかったです。今回のことを生かして、これからもと上手に吹けるようにしたいです。今回は本当にありがとうございました。〈中2女子〉
- ・ ストロークの名称など、自分の知らなかったことを教えてもらえた。楽器の打ち方や打つ場所によって音色が全然変わることを学んだ。〈中3女子〉
- ・ 楽器のメンテナンスの仕方が丁寧になった。毎週月曜日はオイル以外に、グリスを塗ったり、掃除を少ししたりする時間を取るようになった。〈教員〉
- ・ 教え方が丁寧でわかりやすく、子どもたちはレッスンを楽しみにしていました。また、来年もお願いします。ありがとうございました。〈教員〉

（文責：中村 栄宏）

映像コンテンツ

今年度の映像コンテンツは、昨年度に引き続き「鑑賞あるいは授業等補助」と「金管バンド・吹奏楽の演奏指導」の2つの区分で申込を受け付けた。以下、コンテンツの区分ごとに報告する。今年度は、5月にコロナウイルスのガイドラインが更新され、音楽鑑賞・指導の方法が大幅に変わったこともあり、対面鑑賞の機会が増えた。過去3年間に渡って継続してきた映像コンテンツについても、内容の独自性や反復学習の可能性など、対面鑑賞とは形式を違えた利用ができることで、例年多くの希望を受け付けている。今年度、映像コンテンツを希望した学校は21校であったことから、映像コンテンツの安定的な需要を感じることができた。

鑑賞あるいは授業等補助

実施校にはコンテンツのラインナップを計2回に分けて案内し、年間で4種類を上限として申請を受ける形をとった。ラインナップは、昨年度までに作成したコンテンツを使用し、「邦楽・洋楽の鑑賞」が26種類、「授業等補助」が6種類の計32種類となった。

今年度は対面鑑賞が基本となったためか、希望するコンテンツに変化があったように思う。

本コンテンツには、「授業等補助」として楽器の奏法や聴きどころの解説など、鑑賞の補助になる内容で構成したものが複数ある。今年度は、対面鑑賞と映像コンテンツの補助を併用する例が多く見受けられた。提供する鑑賞パッケージによっては、楽器の奏法や作品の聴きどころなど、一度の鑑賞会ではその全てを理解し難い内容もあるが、映像コンテンツとの併用により、これらの理解を深めることができるのではないだろうか。

金管バンド・吹奏楽の演奏指導

コンテンツは、金管バンド及び吹奏楽で使用される13種類の楽器の指導映像が収録され、音を出す前の準備段階から日々の基礎練習までをカバーした内容となっている。

本コンテンツを希望する学校は、その全てが対面指導と併用する学校であり、限られた回数での対面指導に向けた事前学習として、あるいは対面指導後のサポート教材としても用いられた。

楽器の基礎に関する内容はもとより、講師の手元を映したカットや譜例や図表を交えた解説は、利用校から好評の声を受けており、映像コンテンツの特徴である反復視聴については、児童や生徒が能動的に練習に取り組むための大きな一助になっていると感じた。

現在提供しているコンテンツは、各楽器1種類で初級者用～中級者用までを網羅した内容であるため、学習者のレベルごとにもう少し細かく対応できるよう、新たなコンテンツの開拓も検討したい。また、制作時期がコロナ禍ということもあり、視聴するシチュエーションや内容については、現在のスタンダードと異なることも考えられるため、新制作の可能性を探りたい。

【映像コンテンツ一覧】

■邦楽の鑑賞
和楽器の演奏：箏・尺八①
和楽器の演奏：箏・尺八②
和楽器の演奏：津軽三味線
和楽器の演奏：江戸の祭囃子
和楽器の演奏：獅子舞
■洋楽の鑑賞
ピアノの演奏
声楽の演奏：テノール（独唱）
声楽の演奏：メゾソプラノ&バリトン（独唱・二重唱）
声楽の演奏：オペラ・オペレッタ セレクション（メゾソプラノ&バリトン）
声楽の演奏：声種の違いを感じ取ろう／声の重なりを楽しもう
声楽の演奏：日本のうたで四季を味わおう
弦楽器の演奏：弦楽四重奏
弦楽器の演奏：ヴァイオリン／ヴィオラ／チェロ／コントラバス
弦楽器の演奏：ヴァイオリン名曲選
弦楽器の演奏：ヴァイオリン ロマンティック名曲集
木管楽器の演奏：フルート（独奏・二重奏）
木管楽器の演奏：オーボエ／ファゴット
木管楽器の演奏：サクソフォーン
木管楽器の演奏：クラリネット
木管楽器の演奏：フルート／オーボエ／ピアノ 名曲集
金管楽器の演奏：金管五重奏
打楽器の演奏：鍵盤打楽器アンサンブル
打楽器の演奏：からだを使ったリズムアンサンブル
室内楽の演奏：物語と音楽
室内楽の演奏：踊りの音楽
口笛の演奏
■音楽科授業等の補助
歌唱のヒント：「ふるさと」を歌おう
器楽のヒント：リズムアンサンブル・小物打楽器
器楽のヒント：ピアノ／ヴァイオリン／チェロについて知ろう・聴こう
器楽のヒント：リコーダー
和楽器のヒント：箏
和楽器のヒント：和楽器ってなんだろう？
■金管バンド・吹奏楽の基礎レッスン
トランペット／ホルネットの基礎レッスン
フレンチホルンの基礎レッスン
アルトホルンの基礎レッスン
トロンボーンの基礎レッスン
ユーフォニアムの基礎レッスン
チューバの基礎レッスン
打楽器の基礎レッスン
フルートの基礎レッスン
クラリネットの基礎レッスン
サクソフォーンの基礎レッスン
オーボエの基礎レッスン
ファゴットの基礎レッスン
コントラバスの基礎レッスン

アンケートより

- ・ 楽器のあつかい方やふき方をおしえてくれていろいろなことがわかりました。[金管バンド・吹奏楽の演奏指導：ユーフォニアム／小5女子]
- ・ 楽器の扱い方や息の使い方など参考になったようです。特に持ち方を気をつける児童が増えました。[金管バンド・吹奏楽の演奏指導：ピアノ／教員]

(文責：長谷川 将也)

教員研修：和楽器の指導法と実技研修

日時：7月27日（木）12：00-17：00

会場：東京藝術大学千住キャンパス第7ホール、スタジオA、ゼミ室5、ゼミ室6

講師：石本かおり（箏）、石森裕也（篠笛）、長谷川将山（尺八）、山下靖喬（津軽三味線）

本年度の教員研修会は「和楽器」による内容で、「箏」「津軽三味線」「尺八」「篠笛」の4つの楽器の個別研修を実施することができた。講師には、当センターのアウトリーチ活動にご協力頂いている4名をお迎えした。例年、各学校での演奏会に出演している演奏者ということもあり、受講した教員からは、「生演奏に触れた演奏家から直接指導を頂くことができ、とても良い刺激になった」という感想が多くあった。

本研修会は「鑑賞」「実践」「質疑応答」の3つのセクションに分けたプログラム構成である。

「鑑賞」では、箏・尺八による《春の海》、津軽三味線・篠笛による《即興演奏》のプログラムを上演し、楽器の音色や技など、音だけでなく、奏者の動きや息遣いなど、間近で感じていただく機会とした。受講者におかれては、これから受講する楽器の実際の演奏を

聴くことにより、研修会で学ぶべきポイントをより強くイメージできたのではないかと感じる。

「実践」は、受講者それぞれ、4つの楽器から2つを選択し、1コマ40分としてローテーションをしながら研修を行なった。4つの楽器のうち「箏」については、音楽の授業等で指導を取り入れている学校もあるためか、経験者が散見された。その他の「尺八」「津軽三味線」「篠笛」は、比較的、触れる機会の少ない楽器ということもあり演奏に苦戦している様子が窺えたが、楽器の操作方法について学ぶ有意義な機会であったのではないだろうか。

「質疑応答」では、「鑑賞」と「実践」のセクションを経た上で、様々な質問を受け付けた。楽器や演奏曲に関する質問のほか、各演奏家のルーツなどにも迫る、有意義なひとときとなった。

鑑賞会などで接する機会のある和楽器だが、実際に楽器に触れながら奏法や構造について学ぶ機会は少ないのではないだろうか。

本研修会で学んだ、各楽器の奏法や特徴を、今後の鑑賞指導などに活かしてもらいたい。

（文責：長谷川 将也）

政策提言

ここでは、2つの点について提言を行いたい。

第一は、地域発信の部活動構想のことである。

教師の働き方改革に関わって、中学校を中心に「部活動の地域移行」を積極的に進めている地域がある。スポーツ系の部活動の場合、競技によってはすでに移行が進んでいるケースもあるが、吹奏楽など音楽系の部活動に関しては、多くの高いハードルがあると考ええる。

そこでひとつの提案であるが、吹奏楽などの既存の部活動を地域に移行するよりも、むしろ学校単位では設置が厳しいと思われるような音楽活動、例えば、和楽器やオーケストラ、オペラ・ミュージカルなどの活動を自治体レベルで発信する方が、地域の文化芸術振興につながると考える。地域と学校、そして本学（東京藝術大学）が連携して文化芸術振興に資する部活動を構想・展開すれば、全国の格好のモデルとなろう。

第二は、学校の探究的な学習と本プロジェクトとの連携である。

来年度より渋谷区は、全公立小中学校において午後の授業をすべて探究学習の「シブヤ未来科」に充てることを決めている。渋谷区ほど極端ではなくても、各地で探究的な学習の充実に向けた取り組みが進められることはまちがいないであろう。芸術活動は本来探究的であり、「総合的な学習」との相性はよいと考える。学校と地域、大学が協働的に探究する取り組みが期待される。

（文責：佐野 靖）

足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究

アトリエゾンセンター

[研究代表者]

杉本 和寛 音楽学部長／音楽学部教授 言語芸術・音楽文芸

[センター長]

佐野 靖 副学長（社会連携担当）／音楽学部教授 音楽教育

[所属教員]

畑 瞬一郎 音楽学部教授 言語芸術・音楽文芸（旧応用音楽学）

田村 文生 音楽学部准教授 音楽音響創造

～センター所属スタッフ～

[研究員]

深水 悠子 音楽音響創造・作曲

[教育研究助手]

長谷川 将也 邦楽・尺八都山流

中村 栄宏 洋楽・リコーダー

山内 彩 邦楽・箏曲生田流

報告書編集：川田 龍哉

印刷：ヨシミ工産株式会社

東京藝術大学音楽学部アトリエゾンセンター

〒120-0034 東京都足立区千住1-25-1 東京藝術大学音楽学部千住キャンパス

Tel：050-5525-2744 Fax：03-5284-1575

令和6年3月31日 発行